

8月の果実の見通し

品目	区分	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
すいか類		11,830	103	10,961	155	99	150	5,836	49.3	山形、長野、秋田、青森産が中心となる。山形は生育の遅れも回復し、7月下旬～8月上旬がピークとなる。また、長野は着果状況、品質とも良好で、最大の入荷ピークは7月下旬となる。全体の入荷量は前年をやや上回り、価格は前年並みの見込み。
もも		5,680	94	6,442	423	102	389	274	4.8	福島、山梨、長野、山形産が中心となり全体の9割以上を占める。福島は主力品種のあかつきが第2週から出荷ピークとなる。山梨は高温の影響により生育は前進傾向で、8月入荷量は前年より少なくなる。全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並みとなる見込み。
メロン類		2,769	103	2,962	357	107	337	768	27.7	北海道、山形、青森、茨城、静岡産が中心となり全体の8割を占める。品種はアールスメロン、貴味、アンデス、クインシーなど。北海道は生育順調で、7月下旬からピークとなる。青森も生育順調で、8月中旬にピークとなるが、作付面積が減少しているため、入荷量は前年より少なくなる。全体の入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり上回る見込み。
ぶどう (デラウェア)		1,315	100	1,289	544	97	508	1,061	80.7	山形、山梨産中心の入荷となる。山形は房伸び、着粒状態も良好に推移しており、8月上旬に出荷ピークとなる。山梨は露地ものが前年より6日程度早く出荷となっており、盆前に入荷のピーク迎える。全体の入荷量は前年並み、価格は前年をやや下回るものの平年よりは高くなる見込み。
りんご (つがる)		812	95	1,027	385	99	318	238	29.3	長野、山形、山梨産中心の入荷となる。長野は春先の凍霜の影響でさび果の発生も見られ、入荷量は前年より少なくなる。山形はやや小玉傾向で、入荷は8月下旬からの見込み。全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並みとなる見込み。
すもも		936	90	855	450	103	449	93	9.9	山梨、山形産が全体の8割を占める。山梨は4月の凍霜害と干ばつの影響で変形果や小玉果の発生が見られることから、入荷量は前年より1～2割程度少なくなる。7月下旬には貴陽、8月上旬には太陽の出荷が始まる。山形は生育順調で、入荷量は前年より多くなる。中旬頃まではソルダムが中心で、下旬は太陽が中心となる。全体の入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回る見込み。